

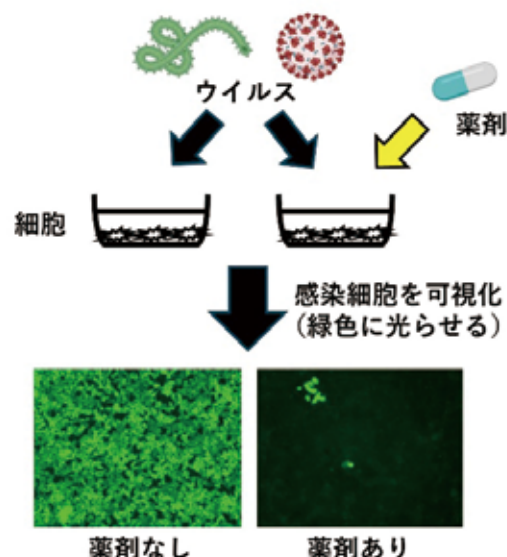
(P1の続き)

の2種類があります。私は長い間、前者の治療薬の候補を探してきました(図3)。その結果、ある高血圧の薬やリウマチの薬が、TPC2が関わるカルシウムの流れを調節する仕組みに作用することで、エボラウイルスや新型コロナウイルスの侵入を阻害することが分かりました。これらの薬の中には、幾つかのウイルスの侵入を止めることの出来る優れものもあり、それらが複数の感染症の治療薬になり得るかどうかとも研究しています。

後者のウイルスを直接攻撃する薬である抗体医薬も近年注目されており、COVID-19の治療薬として使われてきました。

同じように、アメリカのBSL-4施設で私も開発に携わった抗体医薬(Inmaze)はエボラ出血熱の治療薬として使われており、今後も様々な薬が開発されてくると期待されます。

ウイルスが如何にして細胞に感染するかを理解し、それを防ぐ方法を探索することは、重篤な感染症や新たに出現した感染症を制圧するために大事なことです。私たちは、これからもこの長崎の地でそのような研究を続けていきたいと考えています。



薬剤を加えるとウイルスが細胞に感染しづらくなることが分かる。

図3: 治療薬の候補を探す方法

市民公開講座の開催

令和7年9月6日(土)、市民公開講座「エイズウイルスへの挑戦」(講師:有海康雄准教授)を開催し、会場・オンライン合わせて55名の参加がありました。講演では有海准教授よりエイズウイルスの感染メカニズムや世界での感染状況、エイズウイルスの発見から現在に至るまでのエイズ治療の進歩などを資料やイラストを用いてわかりやすく解説しました。参加者からは「抗HIVの薬の変化や開発について(中略)理解することができた。」「昔はあきらめざるを得なかった病気が今はそうでもなく、医学は確実に進歩していることをもっとアピールしてよいと思う。」などの感想の声がありました。



長崎南高等学校「サイエンス講座」への講師派遣

令和7年9月30日(火)、長崎県立長崎南高校SSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業「サイエンス講座」に当センターより6名の教職員が講師等として参加しました。

今年は「感染症とたたかう」をテーマとした講演や、防護具の着用、実験道具の取り扱い、実験動物の模型の観察などの体験学習を実施しました。参加した27名の生徒からは「実際にBSL-4スーツを触ったり着たりすることができました。」「今後の役に立つ研究が長崎で行われていることを少し誇りに思う。」「私も勉強を頑張って夢中になれるような研究をしたいと思った。」等の声を頂きました。



お問合せ先 ご意見・お問い合わせはこちらまでお気軽にご連絡ください。

長崎大学高度感染症研究センター

〒852-8523 長崎市坂本1丁目12番4号

フリーダイヤル 0120-095-819

より詳しくお知りになりたい場合は、ホームページをご覧ください。

ファックス 095-800-4301

ホームページアドレス <https://www.ccpid.nagasaki-u.ac.jp>

